



定期的なサルモネラ検査 実施していますか？

サルモネラ症は、

サルモネラ属菌の感染によって起こる人畜共通の病気です。サルモネラ菌は自然界に広く生息し、鶏、豚、牛、犬、猫などの多くの動物の腸管に存在します。サルモネラ食中毒の原因食材の中でも多いのが鶏卵です。

サルモネラの伝播

- ◎介卵感染 (in egg)
- ◎飼料からの感染
- ◎導入ヒナからの感染
- ◎環境からの感染



サルモネラは乾燥に強く、羽毛・糞便・塵埃中で数ヶ月以上生存可能です。

ネズミ、衛生害虫、野鳥、さらに人間によっても媒介されます。

※感染鶏は強制換羽などのストレスによって排菌率が高まります。

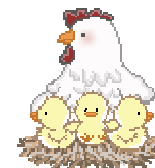
防除対策

◎農場への侵入防止

- ・農場、鶏舎の入り口に消毒槽を設置しましょう。
- ・鶏舎ごとに専用の履き物を設置しましょう。
- ・適切な衛生管理を行っている種鶏場から導入しましょう。その際、必ずサルモネラの陰性証明書をお願いしましょう。
- ・導入前には鶏舎の徹底的な消毒を行きましょう。

◎農場の衛生管理

- ・鶏舎単位でオールイン・オールアウトしましょう。
- ・鶏舎専用の衣服・長靴を使用しましょう。
- ・ネズミ等の衛生動物・衛生害虫を駆除しましょう。



家畜保健衛生所では1検体440円でサルモネラ検査を実施しています！

なお、検体の受付は月・火曜日に行っています。

定期的にサルモネラの衛生検査を実施し、農場の清浄性を確認しましょう。

鶏卵  
埃  
飼料  
導入ヒナ敷料  
糞便 などで実施中です

# 検体の採材方法

農場の規模や体制にもよりますが、検査結果の信頼性のためにも「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」を参考に採材をして下さい。

## 鶏卵のサルモネラ総合対策指針（付記）（抜粋）

ひな輸送箱の敷料：10%以上の輸送箱から採取する

- ・輸送箱10個分の敷料から便の付着部分を各2.5gずつ（全部で25g）採取する。
- ・輸送箱5個分の敷料表面を1枚のガーゼパッドでふき取り、2枚（10箱分）ずつ採取する。

床面（糞・埃）

- ・2枚のガーゼパッドを牽引用の紐の先端にクリップで取り付け鶏舎の長尺方向に沿って牽引しながら一往復する（図1）。これを2検体採取する。

埃

- ・換気孔・換気扇などの付着埃を2～5gずつ10ヶ所から採取、5サンプルずつ混合して2検体とする。

鶏糞

- ・鶏糞ピットあるいは除糞機から1検体採取する。

飼料・飲水

- ・飼料は混合後25g／飲水は1000mlを検体として検査する。

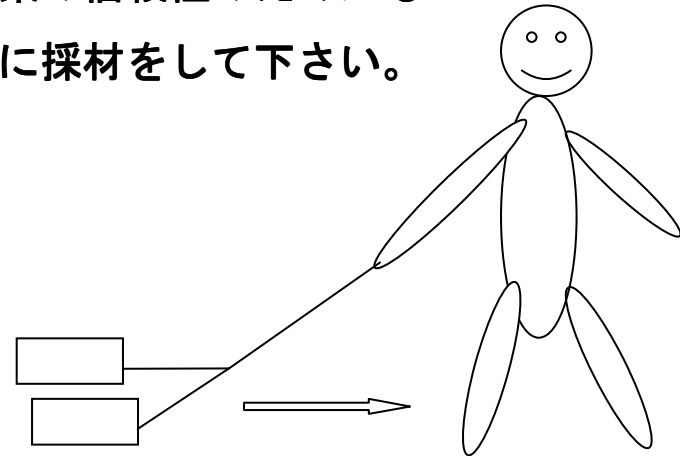


図1

このガーゼを引きずる方法だと、糞と埃を同時に採取することができます。ご希望があればガーゼパッドは家保で用意しますので、事前にご連絡をお願いします。

つまり、埃の1件体あたりの量は  
 $2\text{ g} (\sim 5\text{ g}) \times 5\text{ヶ所} = 10\text{ g} (\sim 25\text{ g})$   
となります。